平成 22 年度外務省行政事業レビュー

公開プロセス

－第１日目－

日　　時：平成 22 年 6 年 14 日（月）

冒頭部分

外　　務　　省

○事務局　それでは、外務省行政事業レビュー・公開プロセスを始めさせていただきます。まず、冒頭、武正副大臣より本日の議論の進め方につき御説明をお願いいたします。
○武正副大臣　それでは、座ったまま失礼いたします。おはようございます。今日、明日の二日間にわたりまして、計 26 事業、予算総額 3,003 億円（注）を対象に行政事業レビュー・公開プロセスを実施してまいります。

今日は、招へい、在外公館施設、無償資金協力及び技術協力の３セッションで、計 11 事業を。明日は、報道・広報・文化交流関連、任意拠出金の２セッションで、計 15 事業、併せて 26 事業（注）をこの二日間で取り上げます。
（注）ＡＳＥＡＮ私費留学生対策等拠出金については行政事業ビュー・公開プロセスにおいて取り上げなかったため、実際に公開プロセスの対象となったのは計 25 事業（一日目が 11 事業、二日目が 14 事業)、予算総額 3,001 億円。

公開プロセスの対象事業の選定に当たっては、以下の３点に留意をいたしました。

第１に、無償資金協力及び技術協力、在外公館施設など、事業規模が大きいものを取り上げております。

第２に、招へい、任意拠出金など、これまで事業仕分けなど、過去に内外から指摘を受けたことのある事項について議論を深めるべく取り上げております。

第３に、今次、行政事業レビュー・公開プロセスにおいては、これまで必ずしも公開の場での議論の対象とならなかったもの、外部の視点による検証を行うことが有効と判断されるものについても取り上げております。

レビューの対象となった各事業については、各セッションの終わりに、外部の有識者の皆様より評決、コメントをいただきますが、その際には支出先・使途を踏まえた事業の見直しの余地、事業の支出先・使途の把握水準、レビューシート・説明内容のわかりやすさの３つの観点から検証していただきます。そして、評決結果、コメントを踏まえ、とりまとめ役よりとりまとめ結果を発表いたします。

それでは、公開プロセスの開始に当たり、岡田大臣より冒頭あいさつをいただきたいと思います。
○岡田大臣　おはようございます。今日は、わざわざ外部からも評価者の皆様に来ていただき、ありがとうございます。

私は、外務省の外務大臣として、まず、この外務省の予算、人、基本的にもっと増やしたいという非常に強い気持ちを持っております。日本の外交力を強化していくためには、国際的に見ても外交官の数は必ずしも十分ではありませんし、経済協力の予算なども、近年非常に減ってきておりまして、もっとしっかりとやっていきたいと基本的に考えております。

ただ、そういったことをしっかりやっていくためにも、まず外務省自身が身を正して、御指摘をさまざまいただくような無駄遣いとか、あるいは必要性の薄いことをやっているということでは説得力がないわけでありまして、そういう意味で私は行政事業のレビューは非常に重要なことであると思っております。

私が大臣になりましてしばらくして、会計検査院の方から健康管理休暇についての御指摘をいただきました。これは年に一回、日本に帰ってくる外務省の職員の費用の計上が不適切であったという御指摘でありました。私は、それは単に指摘を受けて、それで直せばいいということではないだろうということで、私自身も自らの給与を減額いたしましたし、そして大使の皆さんにもそれぞれ自主的にではありますが減額を求め、そして反省をしていただいたところであります。つまり、国民からお預かりしている税金の使い方として、不適切なものがあればそれは厳しく反省をして、二度とそういうことは行わないということが必要だと考えたからであります。そういった基本的な考え方に立っているということを、まず申し上げたいと思います。

その上で、武正副大臣を中心に、昨年は在勤手当の検証でありますとか、独立行政法人、公益法人の見直しなどを集中的に行ってまいりました。そして、政府事業仕分けとも言える行政事業レビューにおきましても、引き続きしっかりとした成果を出していきたいと考えております。武正副大臣、それから吉良政務官の下、外部の４名の方も加えた体制で、行政事業レビューの対象となる全案件、約 700 件について、行政事業レビューシートを作成し、今まで 26 時間の会合を開催してまいりました。そういった作業は、これからもしっかり続けていきたいと考えておりますし、今日、更に新鮮な目でさまざま厳しい御指摘をいただくことは、その作業を加速していく上でも非常に重要なことだと考えておりますので、是非よろしくお願い申し上げたいと思います。

最初に申し上げましたように、これから予算をもっと増やしたい。しかし、そのためには、まず無駄遣い、あるいは無駄まで言わなくても、それだけ効果の少ないものを大胆に削減して、そしてそれをより効果的なところに振り替えていく作業が不可欠であると考えております。

以上です。

○事務局　どうもありがとうございました。

それでは、議論に移りたいと思います。コーディネーターの伊藤参事官、お願いします。